

文学部教職課程

教授 今井 航  
准教授 針塚 瑞樹

## 1 アンケートの実施目的

教育実習を終えた教職課程履修者に対して、令和元年11月22日（金）に1回目の事後の指導が行われた。その際、アンケートを実施した。本アンケートは、平成19年度から実施しており、今回で13回目となる。ただし、平成27年度の9回目のアンケート結果は、まとめることができていないため、この『教職への道』に未掲載である。

教育実習の内容はどうであったか。また、実習を終えてどのような変化があったか。今回も、彼らが自らどのように評価しているのかを答えてもらった。

## 2 方法

当日は、35名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて教育実習に関する評価と自己評価の2点であった。いずれも5段階評価を採用した。5段階は、以下のように設定した。

5 強くそう思う    4 そう思う    3 どちらともいえない    2 そう思わない    1 全くそう思わない

上記1から5までのうち、1つだけ該当する数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、その他として主に公立学校教員採用選考試験に関する事項を調査した。さらに、教職課程への要望を自由に記述してもらった。以下の通りである。

### I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	5	4	3	2	1
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	5	4	3	2	1
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	5	4	3	2	1
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	5	4	3	2	1

### II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	5	4	3	2	1
②教育実習に行く前と後で、教職に対する関心が強くなった。	5	4	3	2	1
③大学卒業後は、教職関係（公／私立の臨時的任用教員、塾講師など）に就職したい。	5	4	3	2	1
④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。	5	4	3	2	1
⑤教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	5	4	3	2	1

### III. その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。	Yes	•	No
②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。	Yes	•	No
③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。	Yes	•	No
④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	•	No

上記Ⅲ. ②でYesと回答した場合、受験した都道府県名、或いは政令指定都市名を下のカッコ内に全て記して下さい。  
( )

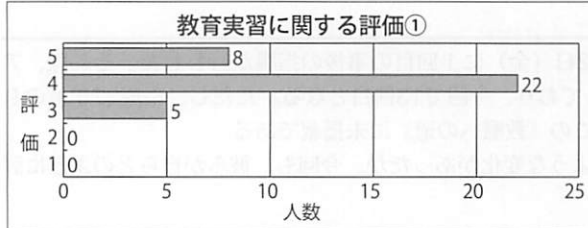
### IV. 教職課程への要望（下の空欄に、実習の事前・事後の指導や講義・演習のことなど自由に書いて下さい）

### 3 アンケート結果

それでは、項目ごとに結果を見てみよう。

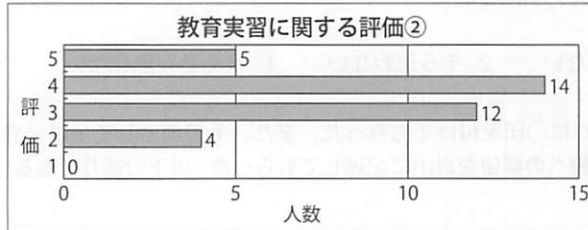
#### I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



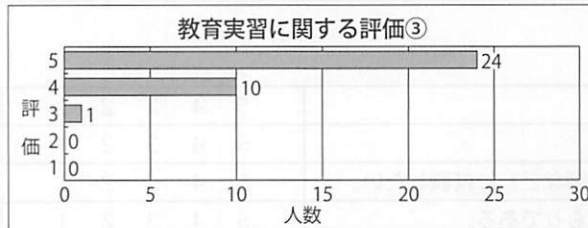
30名（86%）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



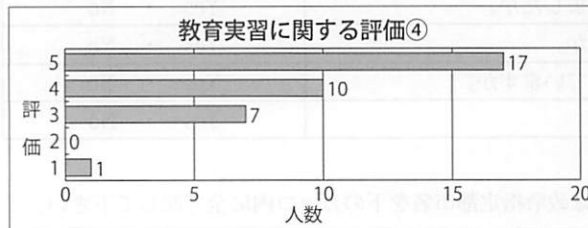
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができたとする者は19名（54%）である反面、16名（46%）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



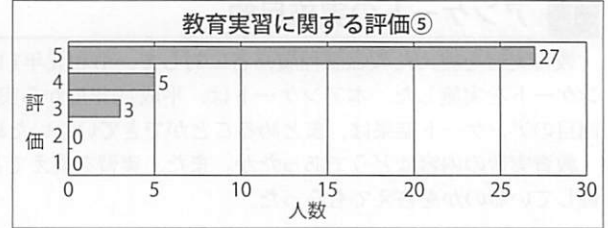
34名（97%）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



27名（77%）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

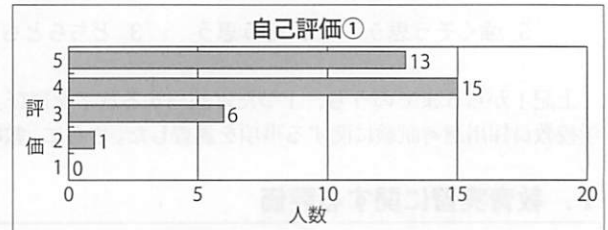
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



32名（91%）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。

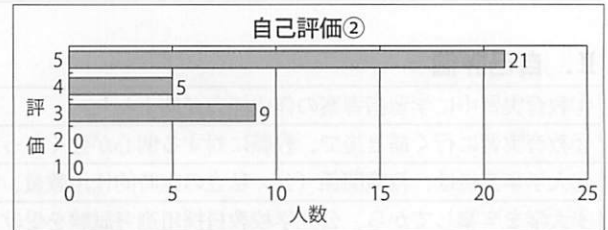
#### II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



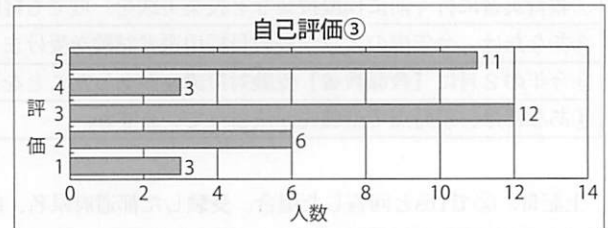
28名（80%）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習に行く前と後で、教職に対する関心が強くなった。



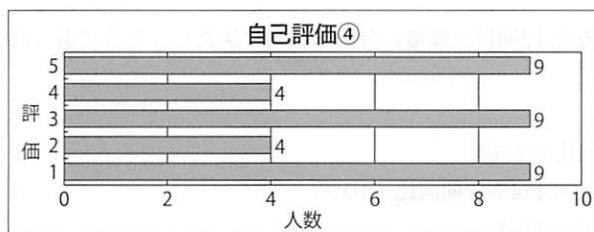
26名（74%）が教育実習に行って教職に対する関心が強くなったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



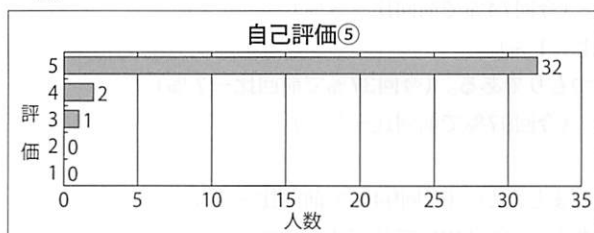
大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、14名（40%）である。12名（34%）がどちらともいえないとしている。

④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりの方は、13名（37%）である。

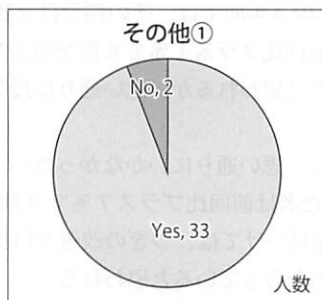
⑤教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



34名（97%）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

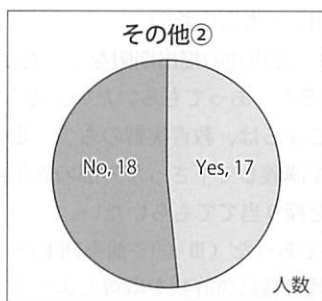
### Ⅲ. その他

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。



授業実践を一度でも経験してから教育実習に行った者は、33名（94%）である。

②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。

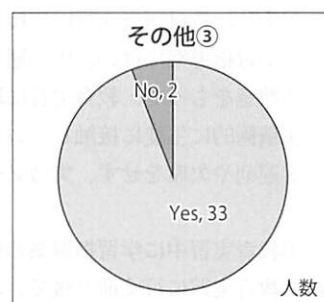


今年度の公立学校教員採用選考試験を受けた者は、17名（49%）である。

また、受験先の内訳は、以下の通りである。

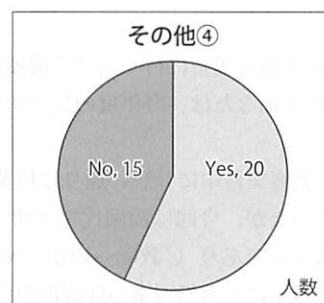
大分県	福岡県	宮崎県	佐賀県	長崎県
8名	2名	1名	1名	2名
熊本県	山口県			
2名	1名			

③今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていますか。



今年の2月に【教職教養】受験対策講座があったことを知っていた者は、33名（94%）である。

④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



令和元年11月22日（金）の時点で就職先が決まっている者は、20名（57%）である。

### Ⅳ. 教職課程への要望

9名の記述が見られた。ここでは、部分的に紹介し、要望には意見を付しておきたい。

たとえば「学生同士で教育実習の振り返りをする時間をもっとほしかった」「4年生から3年生に実習や採用のことを班別に行いたい。また、実際に授業をみせて評価や意見をもらえる時間が欲しい」とあった。「教職実践演習」では、班ごとにおける模擬授業の作成・実施を通じた学生同士による教育実習の振り返りの機会が設けられている。また、「実習指導」では、教育実習の報告会や教育実習に関するディスカッション等が行われている。さらに、「教職に関する科目」の一部では、模擬授業が行われ、その後に意見交換が行われている。教職課程履修者の有志で集い、そうした要望を自ら形にしていけることがあってもよいのではないだろうか。

ほかにも「子どもたちと関わる機会を設けて欲しいと思った」とあった。たとえば、教職課程では、別府市立南小学校の学習支援ボランティアを募集している。積極的に応募することにより、自ら子どもたちと関わる機会を作っていくことを勧めたい。

## 4 まとめ

冒頭でも述べたように、今回は本アンケートを実施し始めてから13回目となる。今回の結果は果たしてどうであったか。特徴を見るため、項目ごとに前回の結果と比べてみた。

- I-①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。(今回86%で前回比+7%)
- I-②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。(今回54%で前回比-10%)
- I-③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。(今回97%で前回比+2%)
- I-④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。(今回77%で前回比-5%)
- I-⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。(今回91%で前回比-1%)
  
- II-①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。(今回80%で前回比+1%)
- II-②教育実習に行く前と後で、教職に対する関心が強くなった。(今回74%で前回比-3%)
- II-③大学卒業後は、教職関係に就職したい。(今回40%で前回比-1%)
- II-④大学を卒業してから、公立学校教員採用選考試験を受けるつもりである。(今回37%で前回比-7%)
- II-⑤教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。(今回97%で前回比+2%)
  
- III-①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。(今回94%で前回比-1%)
- III-②あなたは、今年度の公立学校教員採用選考試験を受けましたか。(今回49%で前回比-7%)

教育実習中に「思い通りに授業をすることができた」と振り返る者が従前に比べて多く見られたことが前回の特徴点であったが、今回は前回比マイナス10%で6割を超えた前回を下回った(I-②)。とはいえ、前々回と比べてみればプラス7%であり(『教職への道』No.38、2018年2月、24頁)、この3年間では、その割合は2番目に高い。たほう「教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した」とする者の割合は前回比プラス1%で8割を超えた(II-①)。こうした結果から、前々回・前回につづき「学習指導案の作成能力は向上したと思われるが、思い通りに授業をすることはできなかった」と推測し、指摘してみたい。

「思い通りにいかないのが授業である」と耳にすることがある。思い通りにいかなかったからこそ「十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ」ということであろうか。そう振り返った者は前回比プラス7%で9割に届こうとしている(I-①)。思い通りにいかなかった授業をきちんと振り返り、課題を見つけては、つぎの改善を目指す姿勢を、教育実習中に身に付けた結果が、先述の「学習指導案の作成能力の向上」をもたらしていると思われる。

「大学生」であるとは言え、学校現場にひとたび入ったら、生徒や保護者から見れば「教師」である。III-①では、教育実習に行く前に授業の練習を一度でも経験したことがあると回答した者の割合が94%を示している。本学では、教職課程履修者全員が授業実践をしてから教育実習にのぞむことを強く勧めている。「教師」であることを自覚し、授業の質的な向上を目指し、引きつづき、皆が前もって授業実践に取り組んでもらいたい。

また、熱意をもって取り組んだか(I-③)。遅刻や欠席をせず、提出物の提出期限を守ったか(I-⑤)。こうした点は、従前と同じで、肯定的に振り返る者の割合が高かった。今後も、そうであってほしい。さらに、これからの人生にとって貴重な体験となったと振り返る者の割合も高い(II-⑤)。ここからは、教育実習のもつ一定の意義が認められる。あわせて、本冊子に掲載されている本学教員や、事前の指導において講義して下さった外部の先生方、あるいは先輩諸氏からの御寄稿を読むことで、各自その意義を問いながら明確な答えを探り当ててもらいたい。

たほう、今年度の教員採用選考試験の受験者の割合は半分弱であった(III-②:前々回45%、前回56%、今回49%)。実際には、教職関係に就かない者もいるであろう。とはいえ、教育職員免許状を取得しようとする者として教職課程履修者全員に受験を勧めたい。受験すれば、教員としての資質・能力を問うことができるし、よりいっそう自らの立ち位置と進むべき道が明らかになると思われる。

今後も、教職課程履修者とともに本学教職課程運営の改善に努めながら、1人でも多くのよりよき教師を、この「別大」から輩出していきたい。